

290  
N692A

白序

近頃西洋の故事或記し書

物世に妙く〜と難〜と或〜と文

易〜と難〜と多〜と

解り難きもの多かれと

先づ〜の讀書あり〜の西

西洋史記  
カ集序

明治辛未新刊



寧靜學人著

西洋夜話  
集初

養愚堂梓



336672

洋の珍奇一帯なる話のきき  
言葉の鄙しき紙頼みは不及  
あつらふ勸善懲惡の意をたつ  
今乃中を以て専一と書し集  
ぶまじ紙教も法く二十冊あり  
是と西洋夜話と題し書肆が

需に任せし様朱上りしは  
なりぬきと素より大人の目に  
觸るんを最恥しきと云ふは  
四方乃雅児達小見せまらせ  
余老漢心の一こけ讀むて知識  
と廣しは法一助とも云ふ

西洋夜話

浅希ふよらん

明治四年末の麦小梅の寓

居うそあうそ

寧靜子人

卷一

初集目錄

○西洋人世界開闢の概

附 西洋諸國大洪水の事

○初て塔と建つる事

附 人民諸洲の移り住む事

○亞西利國女王と天皇國王と戦ふの事

事

附 亞西利國滅亡の事

西洋夜話 初集目錄

○埃及國王平不立人以其惡一と虐く  
る事

附平不立人埃及と適を去る事

初集目錄

西洋夜話初集

○西洋人世界開闢の說

附西洋諸國大洪水

西洋人のいひ傳りる世界開闢の說

六十年以前の事とや天空國

よりきたる西の方よりと波斯

ふはり其又西より大河の邊小種

西洋夜話初集





神 天

の草木の花おと嘆きて実景色よしと處  
 小初て男女二人生しありとど其名を  
 亞當厄襪といひ子孫年々繁昌し  
 追く市町村里と建て住らるとり我  
 祖伊邪那岐伊邪那美の二神天降りま  
 下て話よと似たり古我  
 國の事此風の便か聞か傳へ訛らもの  
 たりハら

斯て其後の人間次第の非道小臨り  
天神の御心が逆ひ諸般の悪業と為し  
幸きは其天冠小因り開闢の故千六百  
ふ十六年の秋より大雨降り出し夜  
登りおとあく十一月より猪玉大洪水  
とありりるは人々をうらり鳥獸小至  
るも何うは以てたまらばべき悉く推  
深き草木も枯りてなごりあり其頃

諾と亞と人々の性質正直く天  
通と恐と敬と此天災ありん  
りて前より此天災ありん  
知り大なる船と造り置り  
る小舟も舟は妻子と石連も波大  
に果り陸より舟も舟も一  
載せし通も心細くも一被り  
くと果るともろくも滄溟と

といくらも新て聖年の三月もあつた  
 ころは漸く雨やみして次第に水も引く  
 酒の波諾亞の一族の衆おし大船を阿  
 羅と山しりし高き山の頂上に着き  
 二つり夫より船と出て逃く麓を下り  
 て南の方へ行くと大洪水の前へ行馴  
 國の邊にお海り諾亞の一家のもの  
 生さず親子兄弟共々安堵の思と

邦

おし是より再び人間繁植しつらと  
 ん實に恐る大洪水あり此大洪水  
 々漢土にて帝嚳の代に當る也又  
 帝堯の時水災ありきと獨り我  
 々掛巻も恐る神の沛代ありは誰か  
 業を為にへきものなりきり  
 幸小新ら天災と免うんきりありへ

○初に塔と建らる事

附 人民諸河に移り住む事

古昔大洪水の時小突籜と免うれて廣

き世界小只一家の釈子のとありて

殊りしを諾亜としし者の一族あり男

子三人あり長子と設莫としし次と華

莫としし又次次雅白得としし

其子孫追てくお繁昌としし

の大洪水と聞き傳ふ者と思ひたる

やう若又人間天恵小悖らとありは再

ひ昔のときは天罰あんと恐るる

古の人を愚うさは高き塔と建て洪水

の時を塔お登りて生命と全ふ

其内お塔の高き天穹お届さるは天へ

も登らんと思ひ立ち粘ちと硬て日向

お燥り大河の東岸小礎と置きて爰



お積りけね胎の如き物とて塗り堅  
 めららとあり扱斯のくく日み積り月  
 お積りて止むとありな駭しき高き  
 お玉りたるも天穹を尚きく日月星  
 を下りて見し小異らとあり人く  
 何れも更お考つるりしとあり実  
 お此頃の人の白癡あらと言語お絶へ  
 たり今佛門も塔と建らる何れも意

うは知らねとも是も古く同し主意  
 初りし事らとも思われり  
 夫々扱置いまは頃の可笑事と言語  
 の学問了ふものなれら人く随意の  
 聲を出さぬのみとて更お定まりし言  
 ありや思ひつけおく大かけら  
 は互に何の事とも聞かなく被塔を  
 建る職人ありと高きお登り居て石

とも来よと味をれを下る職人を松  
 胎のとうを思ひ遠へ又鉄槌ううせと  
 いひるまは擧をも登り祈さまどしと  
 互よ少しと事たりん殊お塔を次才か  
 高くまり言語通せねは愈塔と建る  
 ものやん又一は天へ登るつま望  
 も今を能へ果て論方おるはち地成  
 撰りゆるゆるいんと思ひつる互よ言

語を割別一人とぞお連し何おへ性  
 とも定あく諸方お分きてお立ちり  
 小諾亜の長子設莫の子孫を遠く性ら  
 以して亜細亞海内を止まり天竺邊小  
 位に次男華莫の子孫を亞非利加洲小  
 位に次男埃及小位に末子雅白得の子孫  
 小位に次男羅巴洲小位に希羅小位に  
 とあり是各は諸洲の元祖とあり其子

西洋有言  
補集

孫諸小漫延  
追く  
今の如く國  
は  
昔の如く國  
は  
和漢の昔と  
は  
西洋人の  
和漢の昔と  
は  
西洋人の

知らざる説あり  
○亞西利國女王天竺國主と戦争の  
事

事

附 亞西利國滅亡の事

折西利國の由來と委し尋

ぬきは其昔大洪水の後ふり残

りし諾亞とリ人の子孫塔と建一坂

諸洲小分りて住者多うりし

も程跡小残りて居者も亦多

うりりら其中心ノ孫とて阿

羅とてそのり元ノ地小残りし國

民と制淨し今より四子二百二十年

以前小波斯湾の北より二の大河の間

西洋有言  
補集

小居る茂しり大なる都と建て國を  
亞西利と号けしり是も西國とて  
と稱へ政體と立るの初まりあり其後  
尼英魯徳としり者あり諾亞の曾孫  
りし都と波羅倫小移しぬは初まり元  
の地よりも大なる立派ありし  
りし尼英魯徳の子尼紐斯としり者初  
りて立て王とあるもいふに没しとて  
其後

設け羅密とて者女王とありて國の  
政政執りたりる傲慢して奢侈と好  
こ王宮花美と極め空中に懸るる如く  
園園と作り大木と植へ珍らしき菜や  
美くしき花をりしと更なり何一  
て此園園より物々ありし  
あり然れと設け羅密をりしは是ら  
て時ふの國とて討てんと思はし

古洋書言  
守りも天竺國王の富に榮つる以羨と  
先づけと討んと大軍と起し東南の方  
に向て出立たり時ハ天竺を元より富  
強の國ありは國王ハ亞西利の女王  
押し寄と來りて其王を冠んしと  
と聞くとりやく夥しき兵士と集め  
防禦の備とありし此國の大王一  
の珍らしき刺々軍の備ハ夥多の大象

と用ゆるとつり藝てより訓練とさせ  
軍の時々戦場ハ走り出て鼻頭と  
以て敵と投げたに蹄と踏と例も  
と教へたりけと大象一匹と歩卒の五人  
と向ふ程あり亞西利の女王をその  
と聞て大ハ恐き一ハ奇妙の策と  
以てられを防うんと先鹿毛の糸と  
匹と殺つた其皮と剥き象の形ハ總

西洋書言

力集

十

い優り駱駝お被さる引さおさるの松  
も象のとく見へるもは天竺國王を大  
お警さ西利國は象あき若るるお  
何おより連来りしと思ひつても進  
いおて互お間近く陣と對そまは西  
利の方を備しは真の象はつて偽  
ものるるを成見り最早恐る事をお  
らしと如王の本陣と指しと弛せ向ひ

評多の象と進ひ追ひては駱駝を共一  
退り退り色皆散てお逃り去りける  
跡に大象々々西利人成取て虚空お投  
上り一蹄お數十人と踏殺しり如王  
設殊羅密も重創成負ひるは車駕の  
約お鞭うらて爰そ一坐命と二世  
云と近りかおし命幸くおふ帰る波  
波羅倫あら華美と極り王官お候居



其子屋々亞斯の爲  
 小弒すまゝとあり相も女王設弥羅密  
 大玉のまゝありまゝ國ちと安穩  
 一第民と撫育す成料らん名も不  
 軍と出し隣玉成攻敗り其属と奪  
 い取らんまゝのまゝと還ら小うけて生屋と  
 送りまゝありまゝと還ら小うけて聖人ら  
 たせよおんてさら前の手ゆへごら欲

所人小施とと勿きとし禁戒と  
 知らく人由るありまゝ一嗚呼は女王  
 ら現在わら子小弒まゝも道理あり  
 人ら  
 新く屋々亞斯を其母と弒して亞西利  
 玉の王位小即しつは屋々亞斯も其母  
 代々の王も兎角さか撥情小流まゝ國  
 政をも願まゝさらまゝの多うか



西海傳言  
より凡八百年と経て撒達那波留と云  
者あり此玉の王位と續きながら容顔  
美麗くして女色小耽り政勢小閑り  
常小後宮かの女住居して數多の宮女  
の中ふ交りて月日成送りたりふ前後  
左右婦人の中ふ只一人男子りり変り  
ては似合しうきさるゆへ面白新成  
送り或は婦人の衣裳と着ふしと福

つ森つ魔と著しうり然れども凡この  
世よ生まき一人々たしん王公貴人と雖  
とも魔このみとて日を送りてはいら  
て立命さゆとをり波の撒達那波留  
を岩のそく酒色小ゆりり樂しん居る  
るありうら迷埜斯とりり國の大將小  
て阿貝巴私とりりもの俄小大軍と以  
ておし寄せ来りりきは撒達那波留を

西海傳言  
力集  
十四

大か驚き極子成るもはあはあ何か  
 子適う道もあさりしも生活  
 なは生捕さ奴隷とあきまんを必  
 まら寧死めり小若きりしと覚悟  
 の王宮の廣間小賤賤と積こり  
 うけく撤達形波留を壁片と出  
 の美女と集り官中坐し  
 宮人圖の火とたりりきは山王  
 と烟と

くらふくらふあく失て果おたり  
 く栄へー亜西利國々亡ひて速  
 屬國となりりるとあん鳴呼恐  
 慎む

○埃及國王平不立人と悪しむ事

埃及國々亞非利加海の内小  
 今も衰へきりと雖も古々盛大  
 附平不立人埃及と適き去ら  
 此國

西洋史話 十五

玉も開化も一時を世界第一とし  
わしもどなりさ管をひきよ小平不立人  
し他玉より来りて信りて一終の人  
民より其由来次第ゆりお其昔亜西利  
國の人として阿武刺華年としてもの  
り其妻と苦の男女許多の券属と引連  
き西の方あり可難とゆり玉と福りて  
任さんと本國地立おし途中とて標

くの故障ありて新く流浪し居きり  
う漸くして可難玉お到りたり其子お  
日格事とりしものゆり男子十二人と  
生りて成年大穢歴あり立りゆりは  
珍方あり十二人の子と初り許多の人  
と引終り一同さの嘆及玉お来りて救  
助と求り人々幸さ労働とさして漸く  
露命と撃さたり斯く年月と終り程

西洋史記 十六

其時の仁恵ありては王を没し日枯井  
も死しもる故その王は悪王なり名は  
波羅窩と叫ひるる至不立人と號し  
惡の善理非道と驅役いりりあり  
中ら悪虐と以て攝すの事目と見え  
るるあり然るも平不立人を僅ら五  
十年の百年の間は教と増し  
今もは埃及國王を其國人としりも平不

立人多くありは埃及人の為善き  
事なりと男を立て平不立人の種  
を増すも男子生るるは直  
小尼里とり大なる河に源をへし  
の教命と下りり一人の女あり  
男子は生るるも己ら生み  
たすも男の子と河に棄れし思ふは  
とらありつ思案しるるも棄れ母と

國王の命小背くの寇と以て死罪小行  
 りしとあるは思案小多きと居り  
 一國の法度逆七叶しぬ  
 一あるは新ら果もつらましと今  
 詮方ふくく小菟蒲と以て舟と造りこ  
 ねよ載せん河の存り菟蒲の中は  
 くと棄置き帰ら母親の心の中と表  
 あり杉柵王の女このま小来りり

て菟蒲の中あら赤子成見つけ悪王の  
 女もれとも流石小不便とや思ひん  
 侍女小りひつけく彼赤子と揺ひ揚り  
 させ甚子の實母と尋ね出しくら  
 雇ひ赤子と育てさせ名と護設斯と呼  
 ては王の女も朝夕小寵愛しりる其  
 頃侯及國は世界第一の開化る國  
 小不有藝術學問と教へさせ何不足



なく養育られりきは漢設斯とたき命  
 と助うりしのみうは上のもあさ仕  
 命とのあまもと元来平不立人を漢設  
 の一族をまはまきくとも血脈成分ら  
 者ふりむ當時の悪王小雀らまきく苦  
 多成恨らみ何幸して平不立人と助け  
 今の幸苦と免れさせきく思ひまは  
 何時の候及ふと通と出て可難と小

位と平不立人一同小安堵の思とあま  
 しんときとの心小うけ合時と忘る  
 間をさうりゆり結ふ其以疫痛流  
 て萬民とれと患ひ死らるるの數と知  
 らに國王も當惑しりる朽木流言り  
 傳り小平不立人と苦しりて天罰小因  
 て斯ら病難りりと誰りともなく云  
 べき人々をば王を残念と極小思ひ

平不立人  
 今この時と均まりと二百  
 人平不立人を引連て埃及國と出  
 立りら斯て國王らきて夥多の平  
 不立人と私有しして已ら為小苦し  
 後今俄小ら成失ひては自身  
 為も國人の為し不都合子業あり  
 是暇と遣しして大後悔し又も欲心起

今一度奴家と呼返して驅役くらんと  
 急小軍兵を徴し平不立人の跡追うけ  
 て出陣せしむるや平不立人の紅海と  
 軍兵引連て海に入り早くも平  
 不立人を對岸小着まりら故りて俄小  
 風波起りて埃及小波羅窩を初り人  
 馬残りららの海の藻屑と共し推流さ



西洋夜話初集

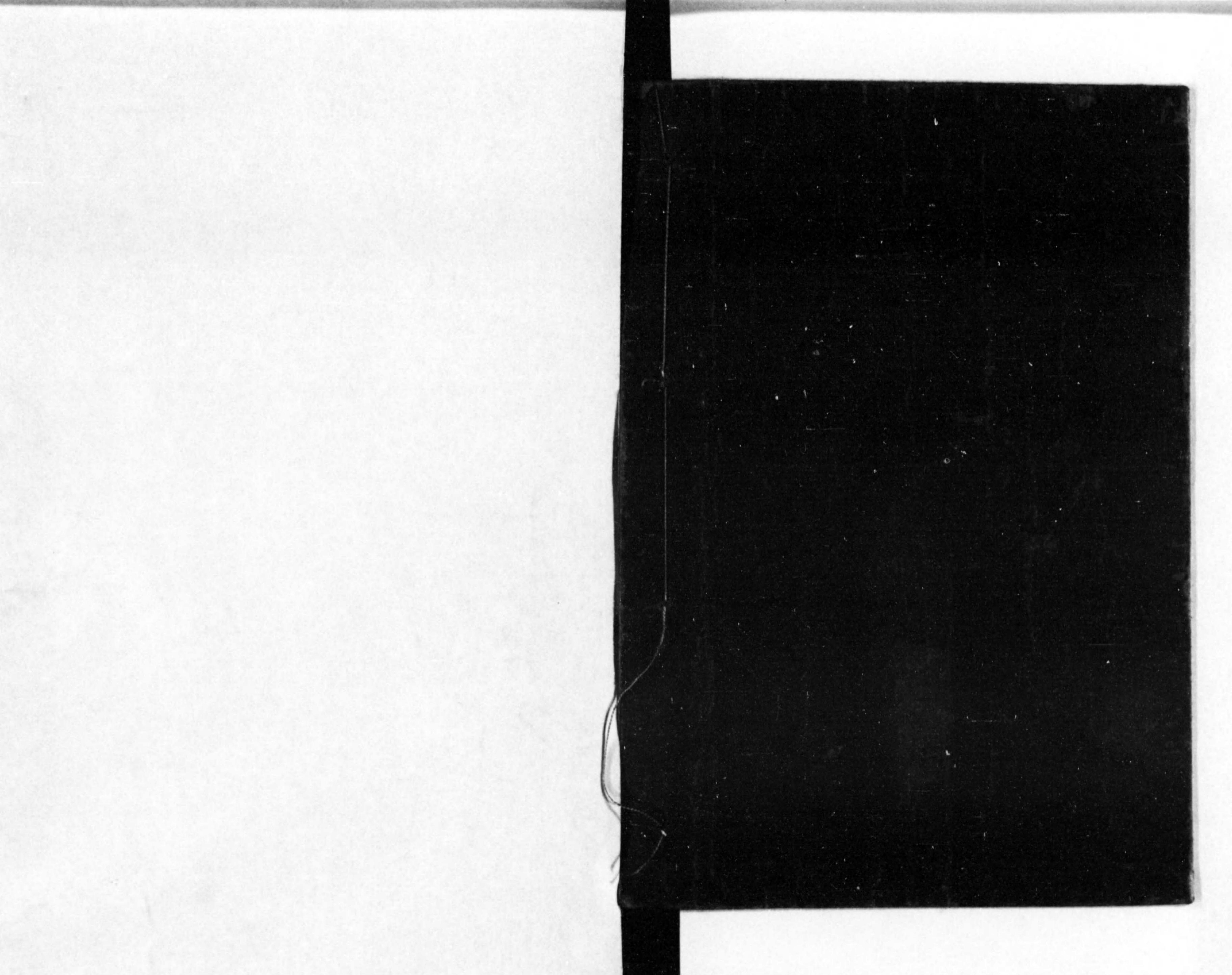
れて失ふやうに實に恐ろしく  
天罰のこ  
そ是より平不立人の亞刺比亞國の流  
浪しつゝ如何なる事か成り  
所々  
次のお板とまじりて讀み合さるる魚

西洋夜話初集

書肆

天明三年月

紀伊國屋源兵衛



022038-000-0

290-N672s

西洋夜話 初集

石川 彝 (寧静学人) / 著

M4

ADA-0370



290.

N672s